

令和2年度 第1回 定例会 まとめ

部会	報告及び議題(概要)	意見交換	今後の方向性
精神	<p>* 新型コロナウイルスの影響や台風襲来時において、実際に挙げられた課題の共有や具体的な対応、今後必要な支援体制・資源について検討。 * 地域移行に関する取り組みについて ⇒金銭管理や住居の確保などの地域課題の共有や当事者・家族会等の自助グループの育成の検討。 * 支援する為の方策として、クライシスプランの活用を検討。 ⇒相談支援部会と合同部会開催予定 * 部会へのリモート参加が可能となった。</p>	<p>※グループ協議 テーマ「市町村障害福祉計画について」 市町村障害福祉計画への要望 各市町村における障害福祉サービスへの支援状況及び障がいのある人の利用状況から、今後3年間の計画に対する意見を共有。不足していると感じるサービスや支援があるとしたら、その原因も協議。</p>	<p>※グループ協議について グループ協議で出た意見をまとめて、各市町村に障害福祉計画への要望として提出する(10月中) 今後も中間評価等に自立支援協議会として定期的に関わりや提言を継続して行っていく。</p>
相談支援	<p>* 事例検討(ケース発表会)の充実 ⇒インシデントプロセス法を用い、活発な発言と焦点を絞った討議の技術を得る。 * 今年度の計画・要望として計画相談に関する研修会・市町村による説明会を実施予定。 * 新型コロナウイルスについて島内で感染者が出た際困ったこと・必要だと感じた支援などの事例を共有。 * 金銭管理支援のニーズ対応への対応について ⇒情報・現状の共有</p>	<p>(計画の各項目) ①障害者等への理解と交流について(理解促進、引きこもり支援、ボランティアなど) ②相談・情報提供について(相談体制、情報提供体制、民生委員等地域の支援体制など) ③保健・医療について(検診、早期気づき、医療ケア体制など) ④雇用・就労について(就労支援・定着支援・福祉的就労など) ⑤生活環境の整備について(施設情報のバリアフリー、移動手段、日中活動の場など) ⑥教育・療育について(療育、放課後児童対策、特別支援教育など) ⑦社会参加について(社会活動への参加促進、スポーツ・レクリエーション及び文化活動の充実など) ⑧災害への対応について(災害への備え、災害時の体制など)</p> <p>＜奄美市＞ ①・障害理解のための講演会や研修の実施(オンライン化も活用) ・引きこもり支援、当事者・家族の集まりの必要性 ②民生委員が情報を得た時に相談を受ける体制 ③医療的ケア児に対する災害時の体制整備 ④障害者へ仕事を生み出すための工夫、取り組み ⑤・地域移行に必要なグループホームの不足。 ・空利地区の居宅介護サービス不足・食事配達 ・住宅の確保、各種施設の空き状況の把握、公表を行ってほしい。 ⑥・療育センター等の専門の医療機関がない ・療育福祉サービスと学校等保育園、幼稚園などの連携体制 ⑦参加しやすいイベントの企画やレクリエーション施設の充実 ⑧ショートステイの不足、安心して避難できる場所、支援のあり方、場所の周知</p>	<p>※各種会議のオンライン化について グループ協議や定例会終了後のアンケートの中にも、各種会議のオンライン化・高頻度化を望む声が多かった。 精神部会ではすでにリモート参加が行われているように、他部会も今後、リモートでの参加を可能にしたい予定。</p>
子ども	<p>* 子ども部会＝コアメンバーによる協議の場として開催 * 子ども支援net＝各地域で開催。多職種による地域課題の共有・ネットワーク・連携つくりの場として開催(9/18南部地域で開催) * 新型コロナウイルス感染症流行時の困り感や対応について、各事業所の取り組みや要望等の意見が出された。 * リレーファイルの再検討・完成・配布への協力 * そだちサポートプロジェクト WEBアンケートの実施・協力(鹿児島大学大学院臨床心理学研究科による)</p>	<p>＜大和村＞ ①・地域民生委員、区長と情報共有し、保健師が対応し把握する。 ・地域有志によるボランティアをつくる。 ②情報把握が困難(社協や民生委員が情報収集) ④サービス事業所の不足(現在ないため長距離移動をしなければならない、送迎できる事業所が少ない) ⑦すももの会が唯一の居場所、日中活動の場であるため、継続を。送迎がない。</p>	
就労支援	<p>* 障がい者就労に関する意見交換会の実施(6/9) ⇒地域の雇用に関する情報、求人の現状、「福祉的就労」の地域課題等について。 * 新型コロナウイルス感染症対策について(行政より) ⇒感染症対策計画の作成・提出 在宅サービス提供の取り扱いについて。 * 就労定着支援について共有。 ⇒事業内容及び地域の現状についての説明、一般就労の現状確認と意見交換。</p>	<p>＜宇検村＞ ②・村内の支援者や各機関と情報連絡会による理解促進の実施 ・民生委員、区長会で相談窓口の案内、解りやすいパンフレットの作成と配布 ③終末期で帰宅希望の方への医療体制の不足 ④・あらかじめ支援の必要な人をピックアップ。 ・福祉避難所、一般避難所の情報を分かりやすく周知。障害がある方への情報提供方法の検討。 ・防災グッズの不足。避難所でベッド不足、身体障害がある方への対応が不十分。 ・個人情報シートの作成。夜間移動の避難対策など。</p> <p>＜龍郷町＞ ①・引きこもりの方への早期対応、実態把握 ・障がい理解のための取り組み(出前講座) ②・人材育成、事業所で働く人が研修に参加する。 ・関係機関の横の繋がり、連携の強化。 ・居宅サービスの早急な整備(地域移行が出来る体制) ・施設、病院から地域移行するための取り組み ・モニタリングの必要性、目的の理解 ③生活習慣病予防に関する取り組み(通所施設等への保健師訪問など)</p>	
地域生活	<p>* 地域移行・居住支援の取り組みについて ⇒地域移行・居住支援プロジェクトを立ち上げ、対象者を選定し、支援チームでモデル的に一人暮らしのサポートを行う。 * 宅建協会作成のガイドブックを参考に、「奄美版一人暮らしガイドブック」を作成する。 * 入所施設サービス管理責任者の情報交換会の継続実施。 * 新型コロナウイルス感染症予防対策や困っていること、利用者へのストレスの配慮や余暇活動の工夫、休みの期間や面会等の状況などの共有。 ・入所者高齢化へのケア・環境の工夫。</p>	<p>＜瀬戸内町＞ ①・親亡きあと、8050問題を抱えている人が多い事に対する取り組み ・ボランティア養成講座受講者の活用 ・不登校、引きこもりの子どもが通える日中の居場所 ②・意思疎通支援の充実。障害に関する制度やサービス等情報の普及、啓発。 ・成年後見に関する情報提供。 ④・事業所で働く職員の確保について行政もサポートする。 ・加計呂麻島では就労支援サービス事業所がなくて困っている。 ・障害の方を体験雇用してくれる企業の開拓 ⑤・住宅の確保、障害の方が借りやすい住宅の整備。(空家の利用も) ・地域活動支援センターのような施設設置を合同で整備(障がいだけでなく、サービス利用していないひと) ・体験外泊が出来る場所の整備。</p>	<p>※研修会の開催(12/5) 精神障がい当事者でピアサポーターの内布智之氏を招きシンポジウムを行う予定。 地域で生活する当事者の方にも登壇してもらい、当事者の活動を広めるきっかけとする。</p>
権利擁護	<p>* 差別解消に伴う取り組み状況の報告 ・名瀬運動公園プール内の設備改修について ・駐車場ブルーカラー化進捗状況について 「思いやり拡大プロジェクト」 ・「障害者週間」「発達障害者週間」の取り組み等 * 各関係機関や民間事業所、当事者団体との意見交換や取り組みの報告 しまバス・日本航空奄美営業所・奄美空港ターミナルビル・マルエーフェリー・手をつなぐ育成会・鹿児島弁護士会・人権擁護委員協議会等が参加。</p>	<p>5市町村共通の要望 ①全体の質の向上を目指す取り組み、支援者向けに段階的な研修(島内開催やオンライン) ⑤・移動手段の助成、障害や高齢の方が交通機関を利用して社会参加できる、鹿児島市の友愛バスのようなもの ・金銭管理の支援をする人・団体等が不足。社協で対応しきれない分をどうするか検討する必要がある。 ・地域移行に必要な住居の確保 ・地域移行を継続的に行う機関 ・夜間時等の緊急時に対応できる支援 ※その他 ・各種会議のオンライン化、高頻度化</p>	<p>※障がい理解のための取り組み 昨年度の定例会の決定で実施されることとなった「障がい理解のための出前授業」を、今年度も引き続き行っていく。 12/9、龍郷小学校で実施予定。</p> <p>※地域移行のための取り組み 「地域移行・居住支援プロジェクト」チームを中心に、宅健協会や他機関と連携を図りながら、地域移行への具体的な支援を今後も継続して行っていく。</p>